

地域行事で励む美化活動が行政を動かしモラル向上に一役買う

文部科学大臣賞 東京都 杉並区立杉並第八小学校

100万人の観客と1万人を超える踊り手で熱気に包まれる「東京高円寺阿波おどり」。年々規模が拡大する一方で、大量の散乱ごみ問題が顕著化していた。その解決に向けて立ち上がったのが、祭り会場を校区に持つ同校の6年生児童だ。主催団体「NPO 法人東京高円寺阿波おどり振興協会」と連携しながら、祭り当日のごみ回収を呼びかける活動を2012年に開始して以来、毎年取り組みを深化させながら地域の輪を広げている。

壊れた家電など祭りとは無関係のいわゆる「便乗ごみ」の発生という新たな課題も浮上する中、児童は学校公開時に住民などにごみの意識調査を実施。その結果をまとめて前述の協会にプレゼンし、活動方針を訴える。昨年度は、便乗ごみを解消するために、杉並区長に可燃ごみ臨時回収を協力要請し快諾を得た。そして今年度は、清掃事務所へ臨時回収協力を依頼、ごみ削減の啓発チラシを作り町会長へ配布依頼するなど、草の根活動を展開。行政、地域の企業や団体、住民、学生ボランティアなどの協力を得ながら迎える祭り当日、児童は、踊り手の団体「連」と「連」の間に入って、空き缶などの資源ごみを回収。100万人の観客にモラル向上を呼びかけるチラシも配布するなど地道な作業が続く。祭りが終わった翌朝は、ごみの状況を調査して近隣中学校などで活動報告を実施。手ごたえや地域へ芽生えた愛着をかみしめながら、最後は自分たちの思いや願いをこめて5年生に引き継ぐなど、教育の一貫したプログラムの中で実践されている。

協会の富澤武幸専務理事は、「もともと地域に開かれた学校で、児童が住民と積極的にかかわる下地ができています。あとは、児童が円滑に活動できるよう、我々がその背中を押してあげることに尽きる」と力を込める。

一人ひとりの技より、「連」の連帯感が重要視される阿波踊り。児童が取り組む美化活動は、人と地域を結びつけるかけがえない「連」となって、ふるさとに活力をもたらしている。

東京都杉並区立杉並第八（すぎなみだいほち）小学校

学校長：黒川 雅仁

児童数：144名(2016年11月末現在)

住所：東京都杉並区高円寺南 2-40-24

電話：03-3314-2264

アクセス：JR「高円寺」駅より徒歩約7分



写真上：祭りとは無関係の便乗ごみが道にあふれる状況、上から2番目：杉並区長に可燃ごみ臨時回収を請願する児童、上から3番目：祭り当日、資源ごみ回収を呼びかける様子、下：活動報告を地域へ広く発信